

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 9月 14日

【評価実施概要】

事業所番号	2070101767		
法人名	有限会社 カインズ・ライフ		
事業所名	グループホームしなの		
所在地	長野市上野 2 丁目 589-1 (電 話) 026-296-7002		
評価機関名	コスモプランニング株式会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成19年9月14日	評価確定日	平成19年10月15日

【情報提供票より】 (平成19年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 13人, 非常勤 8人, 常勤換算 16.1人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1~2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷 金	有 (円) <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> (200,000円) 無 <input type="radio"/>	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> / 無 <input type="radio"/>
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,500 円

(4) 利用者の概要(平成19年9月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護 1	2	要介護 2	7		
要介護 3	4	要介護 4	2		
要介護 5	3	要支援 2	0		
年齢	平均 84.7 歳	最低	73 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・ (医) 清水内科クリニック ・ (医) とくま歯科医院		
---------	-------------------------------	--	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近隣には臈月高校・東長野病院などがあり、春には散歩や買い物の途中に桜の花が見られ、秋は紅葉が美しく、雪の季節になると少し大目の雪が降り、肌で季節が感じられる自然豊かな環境にある。開設時に比べると、少しずつ心身ともに機能が低下してきている入居者に、「本人の困っていることは何か」という視点から毎日の生活を支援している。ホーム全体の厨房があり、そこで主たるものは専門の方がつくり、味噌汁など簡単なものを各ユニットで調理している。重度の方がいる中で、職員が1対1になることも可能な取組みがされているので、家族には安心できる要素となっている。寝たきりになっても毎日その人らしい生活が送られている。ホームの建物脇には東屋が設けられ、ひと時の休憩等に大いに利用されており、訪問日当日も入居者の方々の楽しそうな笑顔が見られた。

【重点項目への取組状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 継続的な研修について、常勤・非常勤を問わず外部研修・内部勉強会に参加している。外部研修の受講者は結果を他の職員へ報告・発表している。内部での勉強会は管理者・リーダーが講師となることもあり、お互いに勉強になっている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者・現場職員が形は違うが何らかの方法で参加している。以前の評価結果については、「家族会」開催の折に家族に見ていただいている。運営推進会議委員の方々にも結果を公表している。
重点項目 ②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は7回以上開催されている。回を重ねるごとに地域の方々の意見などが多く聞かれるようになり、地域行事の参加もしやすくなった。また内部のことについても地域の方々に少しずつ理解されてきていると思われる。回を重ねる事により理解が得られたことから、今後はターミナルケア・防災など地域に協力を願う事項の話し合いについても更なる重ねる必要があると思われる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会を年一回開催している。管理者と家族の個人面談も行うなど、色々工夫をして家族の意見を引き出している。現場職員に話された家族よりの意見は必ず管理者に伝達し、家族のもとへ回答をしている。職員の異動については必ず家族のもとへ連絡をしていただきたい。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 毎日散歩に使っている公園の掃除について、地域の方からホームも参加するよう働きかけがあり、実行している。散歩の時には、必ず行き会った人々に挨拶をしている。地域から孤立しないように心がけている。ホームで開催される行事に隣組の方々に声をかける手段として、回覧板等の利用も良いのではないと思う。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスになって、理念を「地域の方々との交流を大切に、お互いの関係を深め、利用者の方々がその人らしく普通に地域の中で暮らし続けることを支援します。」が付け加えられた。事務所内に掲示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送りがされる時に、必ず理念の話をしている。申し送りの手順表に「理念の確認」の項目が入っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣組には、年間で協力金を納めている。地区社協主催の「ふれあいサロン」の行事、「どんど焼き」などに参加している。ホーム主催の「納涼祭」も回覧板を利用して地区の方々にお知らせしたら良いのではないだろうか。月1回地区の清掃ではホームの職員が主になり掃除を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が何らかの形で評価に参加している。現場から見た入居者の気持ちなどを口頭でチームリーダーに伝えるなどして全員が参加している。過去2回の評価結果も、家族に開示している。昨年は、運営推進会議にも提出した。		

グループホームしなの

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長・民生委員・家族代表・地域包括支援センター職員で構成されており、2006年4月より現在まで7回会議が開かれた。公園の掃除の件など、近隣住民の意見が区長を通して聞かれるようになった。運営推進会議を開催したことによってホームの内容を理解してもらえるようになった。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進委員に、地域包括支援センターより参加してもらっている。相談が生じた時は、その都度市へ連絡を取っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホーム便り・「しなの通信」が毎月発行されている。月1回請求書とともに家族のもとへ送付されている。小遣いの出納帳もその時にコピーを送っている。	○	入居者の近況を現場担当者の言葉として家族へ報告していただきたい。また、そのことにより職員の観察力などレベルアップも図られると思われる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回の家族会が開かれている。管理者が全体説明をしてから、個人面談を行っている。待っている間に職員、家族同士の話し合いの機会が設けられ、要望・苦情などを聞いている。職員は管理者に連絡して結果を必ずリーダーが回答している。話しやすい雰囲気なのか、家族同士の話やホームへの要望など、沢山発言されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動報告は、書面では現在行われていない。職員が交替する場合は、新しい職員に入居者の情報を伝え、早期に関わりが持てるように取り組んでいる。	○	家族の中には、職員の異動が気がかりな方もいると思われるので、ホーム便り「しなの通信」等に人事欄を設けて家族への連絡をしたらどうだろうか。

グループホームしなの

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・マネージャー2名・リーダー5名の会議は頻繁に行われているが、全体の定例会は決められていない。常勤・非常勤に関わらず外部研修・内部勉強会に参加している。外部研修を受けたものは、他の職員へ報告・発表している。内部勉強会は管理者・リーダーが講師となることもあり、お互いに勉強になっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加盟している。長野圏域の交流会（10～15事業所）に参加しており、相互訪問など計画の段階に入っている。職員の研修にも大きく役立つものと思われる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	空きが出た時点で声がけをして、ホームに訪問していただいている。入居申込者・家族共に訪問していただき、ホームの雰囲気などを感じてもらっている。現場職員も同席している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者を人生の先輩として見ており、出来る範囲での個人的な悩みなどを聞いてもらったりしている。職員からは異口同音に「入居者との関係は普通の人と同じ」と聞くことができた。共に支えあう姿勢が垣間見られた。		

グループホームしなの

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に家族より、フェイスシート・発症経過シート・家族状況・生活状況など詳しく聞き取りが出来ている。また、後日ホームに訪問の際も会話の中から聞き取りもされている。フロアで1対1の関係作りをして聞き出すようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者及び家族よりの希望をもとに介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3～4ヶ月に一回の見直しを行っている。入居者と担当者・リーダーで話し合い、最終的にリーダーが見直しを決定している。家族のサインもいただいている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の支援、薬を取りに行くなど職員が付き添いをしている。美容院に出張してもらい、カット・パーマ・カラーリングなども利用している。		

グループホームしなの


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診、薬のみの場合もスタッフが付き添い、同行している。市民検診を利用して、年一回の定期健康診断を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開設当初より管理者は重度化になった場合でもホームで看たいと話していたが、現在もその言葉通り実行している。最近バスリフトを取り付け、洗い場用の車椅子も新に備えて対応している。家族、医者、スタッフとの話し合いも出来ており、「緊急シート」も作成されている。マニュアル作りにまで発展させていただきたい。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	契約時に重要事項説明書において入居者・家族に説明している。排泄等の失敗の際も居室等で対応がされている。声がけなども、本人に解かるように優しく耳元で話しかけた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	11時位から散歩に出かけるが、日によっては敷地内の東屋でお茶をいただきながら、2ユニットの入居者が歌を歌ったり雑談を楽しんでいる。体調が優れない等、出かけられない方は居間などで思い思いに過ごされている。		

グループホームしなの

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時間には童謡・民謡・昔のなじみの歌などをテープで流している。入居者の中には重度の方々もいらっしゃるが、職員介助で一緒に食卓についている。刻み食やおかゆなど、工夫された料理を時間の制限をしないでゆっくりと、ご自分のペースで食べられている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則的には週3回だが、体調・希望により対応している。寝たきりになった方のためにバスリフトを備え付けるなどして入浴を出来るように配慮されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	東屋では7~8人の入居者がお茶を飲みながら歌を歌い、職員と入居者が腕を組んで調子をとる楽しそうな光景も見られた。菜園からきゅうりを収穫し、自慢げに話す入居者も見られた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・東屋でのお茶飲み・春のお花見・商店街の七夕祭り・善光寺の菊花展の見学などを行っている。お花見などはお弁当持参で楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の中でも徹底している。各居室やホームの廊下の窓なども季節に応じて開けている。玄関も網戸の引き戸が設置されており涼しげであった。		

グループホームしなの

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回ホーム主体で、市の消防にも参加してもらい行われている。消火器関係も業者の年2回の点検の際、取り扱いなどの実習・訓練がされている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	便秘予防のため朝食に牛乳を必ず飲んでい る。おやつにもヨーグルトを食べるように心がけている。水分摂取量は個人ごとに記入されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファセットのある広い居間や大きく開いた窓のある畳の部屋で、食後、ゆっくりとくつろいだり昼寝をしたりと、居心地の良い空間を作っている。洗面所の前にソファが置かれ、レトロ調の振り子時計が腰掛けた目線にかけられており、入居者の好まれる場所のひとつとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット使用や畳を感じさせるカーペットを床に敷くなど、入居者の生活に合わせたスタイルになっている。仏壇・家族の写真・テレビ・使い慣れたタンスなどを持ち込まれ、入居者が居心地よいように配置されていた。		

※  は、重点項目。